

訪問医療MaaS

【SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境にやさしい魅力的なまちづくり】
持続可能な社会の形成を目指す。



「持続可能な開発目標」 (SDGs)

株式会社SCOPE

SDGs を推奨する地域医療の在り方



3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



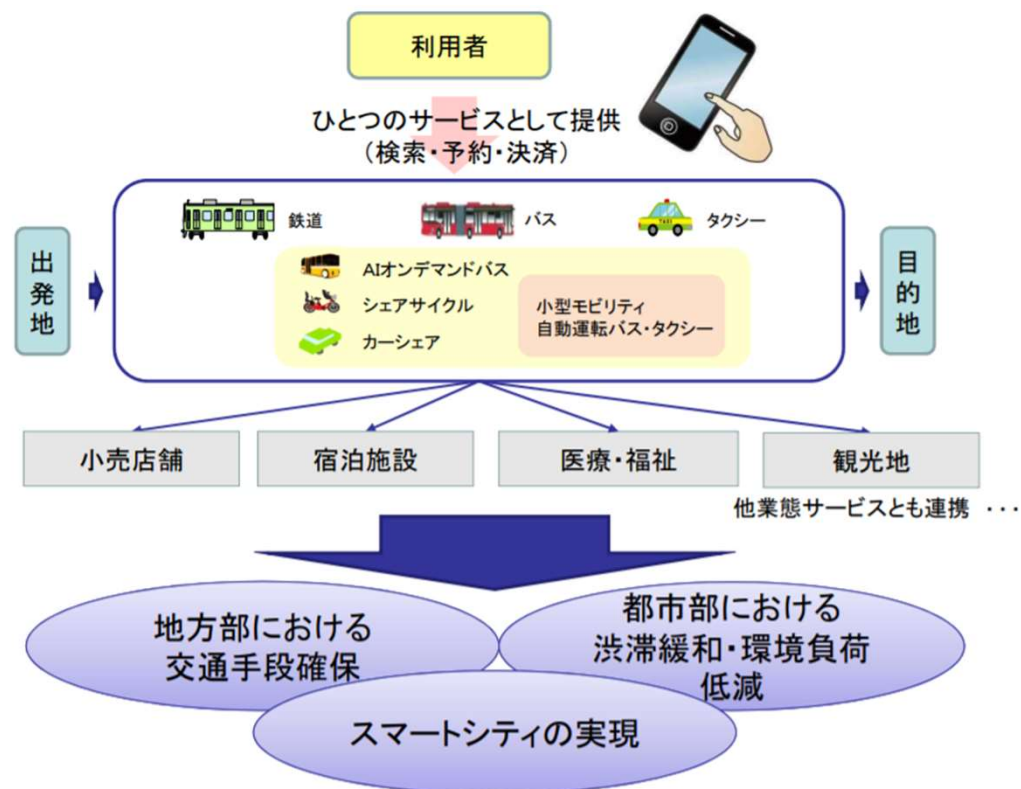
17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

MaaSの可能性

「SDGs」「サブスクリプション」「キャッシュレス」を兼ね備えた【MaaS】は少子高齢化等に伴う交通サービス・移動そのものの縮小、ドライバー不足などの様々な「空白地帯」の問題解決の糸口となりうる。



在宅診療

国や自治体と連携したエコシステム

1. ユニバーサルなMaaS（MaaS相互の連携によるユニバーサル化）

地域を問わずどこでも、高齢者・障がい者・貧富の差も関係なく誰もが使えるユニバーサルなMaaSを目指したいと思っています。

2. 高付加価値なMaaS（移動と多様なサービスの連携による高付加価値化）

日本版MaaSは移動手段をつなぎ合わせるだけではありません。利用者視点で考えて、小売、医療・福祉、観光など“他のサービス”と組み合わせることを大切にしています。

3. 交通結節点の整備などまちづくりと連携したMaaS

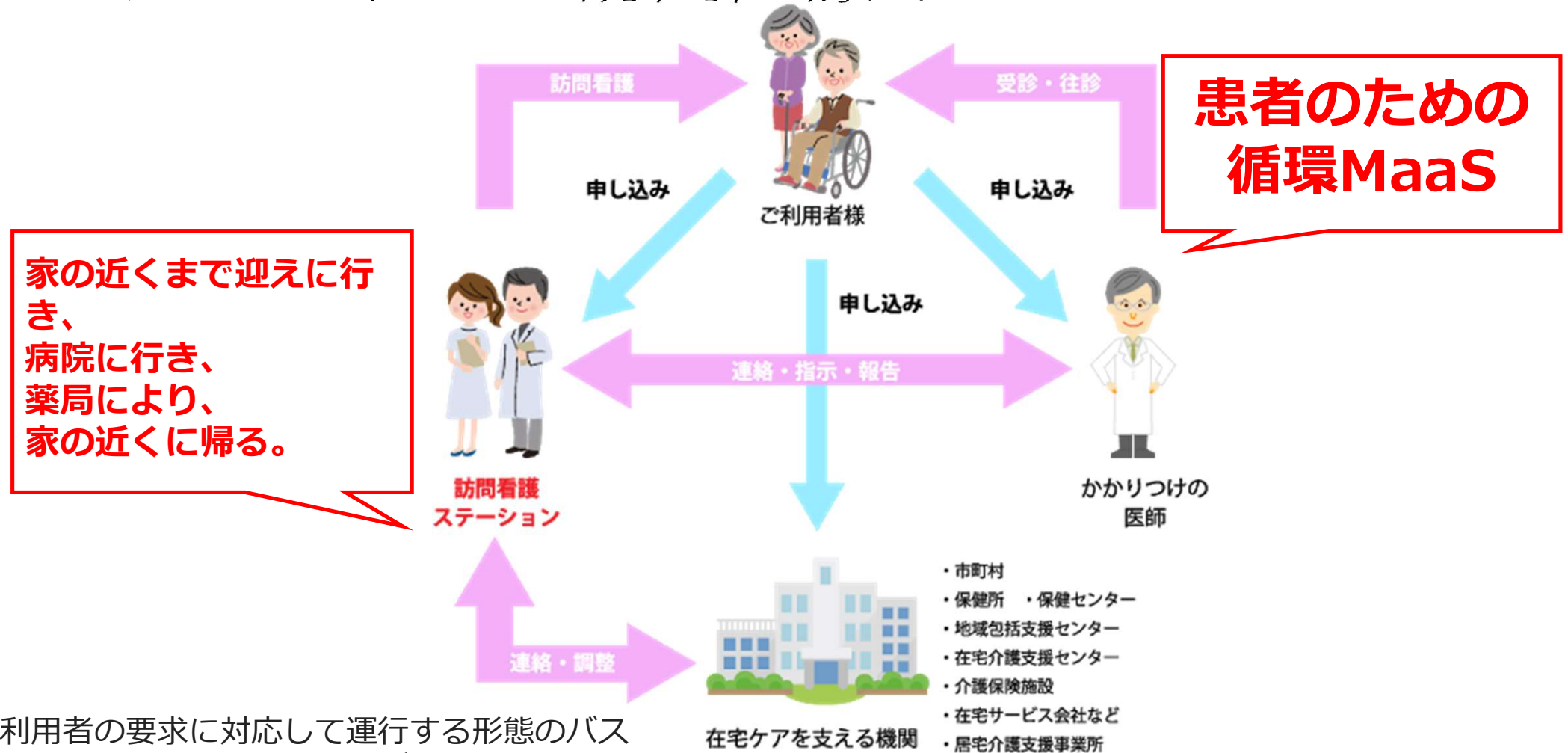
デジタルで移動手段をシームレスにつなげたり、MaaSアプリを開発するなどサイバー空間の取り組みだけでは不十分です。例えばバス停やその案内表示が整備されていなければ利用者は使えません。したがって、まちづくりやインフラの整備もセットで考える必要があります。

MaaSは空白地帯を埋める役割

- ・「交通機関空白地帯」「買物空白地帯」を埋めること。
- ・「誰もひとりにさせない街づくり」を目指し、AI/IoTを活用した新たな公共交通システムや、病院や商業施設等と交通の連携により、質の高い地域生活を維持できるモデルを確立させること。
- ・高齢者の免許返納等、自家用車に過度に依存しない移動手段を提供すること。

ラストワンマイルの移動を考慮することで地域の持続可能性向上につながり、
交通機関の効率化設計により公共交通機関を守ることができ、
利便性向上につながり、ワンストップ化、ひいては家計費負担緩和につながります。

デマンドバス訪問医療イメージ



- ・ 利用者の要求に対応して運行する形態のバス
- ・ 乗合タクシーの形態をとるデマンド型乗合タクシー